

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	映像音響1	
科目基礎情報					
開設学科	音響芸術科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	参考資料のプリントを配布。				
担当教員情報					
担当教員	横田 実		実務経験の有無・職種	無	
学習目的					
この科目は、映像・音声に関する様々な基礎的知識を学ぶことで、就職の幅を広げることを目的とします。この授業を学ぶことによって、将来音響技術者だけでなく様々な映像制作現場で働くに十分な知識を身につけ、また近年求められている音響と映像の双方を理解した技術者の育成します。					
到達目標					
この授業ではポストプロダクション業務にとって必要となる映像の基礎知識を学び、音響業界のみならず映像関連エンジニアへの就職が可能となるレベルの人材づくりを目標とします。授業の中では極力機材に触れ、分解してその構造を実際の目で確認することで体感的に覚え、それを講義によって補足することで確実に知識として定着させることを目指します。					
教育方法等					
授業概要	機械の内部構造について直接目で見たり触れたりする機会が少ない学生達に、出来る限り実機を用いてあるいは映像資料を用いて目で見える触る授業展開を行います。関連資料を配布し授業に活用します。				
注意点	板書を多用はするが、板書だけではなかなか理解できないので、話をよく聞くことを第一に考えてください。話の中で出てくる用語や分からない事はそのままにせず、その場で質問することが大切です。目で見て、触れて、体感して覚えることが多い科目なので休まないようにすることが大切です。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができません。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	70%	試験を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	映像作品の見方		様々な映像作品を通して、作品の意図や制作テクニック、映像制作における考え方などを学ぶ		
2回	フィルムの基礎		フィルムカメラの構造から撮影スタイル、音声記録方式等について理解する		
3回	電波の基礎とテレビの歴史		電波の周波数による特性、変調方式およびテレビ技術の歴史を学ぶ		
4回	日本の放送方式		SDTVからHDTV、4K、8Kなどの放送方式の規格の詳細について学ぶ		
5回	アナログコンポジット信号		同期信号、変調方式、インターレスとプログレッシブなどの技術について学ぶ		
6回	測定器の見方		実機を用いて、コンポジット信号について学ぶとともに、測定器の見方を学習する		
7回	各種映像信号について		セパレート信号、コンポジット信号および各種デジタル映像信号について学ぶ		
8回	タイムコード		ドロップフレームとノンドロップフレームの違いについて理解する		
9回	VTRについて		磁気記録方式からVTRの記録フォーマット、CTL信号などについて学ぶ		
10回	VTR編集とノンリニア編集		アッセンブル編集とインサート編集、リニア編集とノンリニア編集の違いなどを理解する		
11回	映像信号の接続方法		インピーダンスについて学び、映像信号の接続の仕方について理解する		
12回	テレビカメラについて		テレビカメラの構造、取り扱い法について実機を用いて学ぶ		
13回	色温度と被写界深度		実機を用いて、色温度や被写界深度について学ぶ		
14回	画像および映像ファイル形式		各種CODECについて、その種類と可逆・非可逆についてを学ぶ		
15回	復習		この授業の内容についてもう一度反復復習を行い、理解を深める		